

9月5日(水)周防大島町立城山小学校で、下関地方気象台と連携して、緊急地震速報を活用した避難訓練実施

城山小学校で下関地方気象台と連携して、緊急地震速報を活用した避難訓練や、地震に伴う津波、液状化、震度に関する実験を行いました。

当日のテーマは、

- 1 緊急地震速報を聞いた後の安全確保や避難の仕方について、訓練をとおして身に付け、防災意識と実践力の向上を図る
- 2 講義や実験をとおして、緊急地震速報の仕組みや大地震・津波で起きる現象について理解するの2点でした。

<緊急地震速報について>

最初に、下関地方気象台の職員の方から緊急地震速報の仕組みや、それを聞いたときの対応について教えていただきました。

- ・速報から揺れまではわずかな時間しかないので、迅速に身の安全を確保する。
- ・教室では、先生の指示を聞き、机の下に潜る。
- ・机等がないところでは、物が倒れてこない、落ちてこないところで身を低くして揺れがおさまるのを待つ。



<訓練の実施>

各教室に戻り、担任の先生から訓練の意義や、避難時の行動等の再確認。

1 地震発生

○「ティロリロリン、ティロリロリン、緊急地震速報です」



緊急地震速報の音とアナウンスを聞くと、児童はすぐに机の下に潜り、自分の身の安全を確保します。



2 安全な場所への避難

強い揺れがおさまると、教頭先生の合図で安全な場所に避難します。

全体に指示を出す場合、校内放送が使えなくなる可能性があるため、ハンドマイクを使って声による指示がよいのか、サイレンによる指示がよいのかなど、訓練をとおして明らかになった課題を、訓練をとおして解決していきます。

<地震に伴う津波、液状化、震度に関する実験>

下関地方気象台の職員の方々が3つのブースに分かれ、地震に伴って発生する災害等について、それぞれ実験器具を使って、児童にわかりやすく説明しました。

・津波実験

風による波と地震による津波との違いを知り、模型でありながらも津波の破壊力に児童はびっくりしていました。



大きな波が繰り返し押し寄せる津波の怖さがよくわかる実験でした。

・液状化実験

水を含んだ砂の上に模型を置き、それを揺らすとだんだん水が表面に出てきて、模型が倒れてしまいました。



水が出てきたことに子どもたちはびっくりして、何度も実験を繰り返していました。

・震度計測実験

計測機械が積んである台車を押したり引いたりして揺らすと、パソコンの画面に震度が表示されます。



子どもたちは台車を動かして、「今のは震度4だ」などと予想しながら実験をしていました。